

# Meet the Musicians

楽団員紹介

バラエティ豊かなホルン・プレイヤー

## 上間 善之

Yoshiyuki Uema

[首席ホルン奏者] 2006年8月入団

趣味:釣り、東響野球部/東響フットサル部に所属



©N.Ikegami

### ホルン奏者のDNA

中学校では野球部に入ろうと考えていたのですが、姉の影響で吹奏楽部に呼ばれて、人が足りなかったホルンを吹いたら音が鳴ったので、先生が「君もう決まりだね!」と。小学校のクラブでトランペットを吹いていたのでそのままコンパートされました(笑)。

きっとどの楽器もそうですが、ホルンもやればやるほど難しい楽器。単独プレイ向きではない分、オーケストラの中での影響力などを考えながら演奏すると、とても興味深いものがあります。各楽団内に限らず、日本全国、世界各国のホルン奏者は仲が良いですね。「誰かやってよ!」と言われるとみんな遠慮しがちだけれども、集まった時のパワーは凄い。ホルン奏者のDNAかもしれません(笑)。

### “音楽”“トーク”“笑い”のホルン紅白

2011年、川崎市中原区役所内での復興コンサートからスタートしたホルン紅白もまもなく10周年。最初、大野さん(首席ホルン奏者)にこのアイデアを持ち掛けたところ、「是非やりたい!」と言ってきて。でも私は話すのが苦手なので、どうしようかと考えていたところ、運よく横に某音大落語研究会出身の人(元ホルン奏者 現パースネル・マネージャーの“チャーリー 犬和田”)がいたので(笑)司会をお願いし、今の形になりました。

曲目は自分たちが慣れ親しんだ昭和歌謡。選曲は、会議(という名の宴会)でリストアップします。北は北海道、南は沖縄まで、あらゆるとこ

ろで開催したので、会場や時期を考えて、曲が被らないように選びます。レパートリーは100以上あるかもしれません。



©ラブリーヴ音柳

お馴染みの「UFO」は振り付けも忠実に。

### 初めての無観客コンサート

コロナウィルス感染拡大の影響をうけ、この3月、昨今の状況から、初めての「無観客コンサート」を経験しました。本番同様に燕尾服を着ているのに、ホールにお客さんはいなくて、響きもスーツと通っていってしまう。妙な緊張感もあって、シユールというか、なんとというか……。なので、公演後の反響を見たときは安心しましたし、力をもらいました。よく“演奏会はお客さんがいて初めて完成するもの”と言いますが、それを身をもって感じる事ができたことは、とても貴重でした。今は、また聴衆の皆さまと会場でお会いできる日を心待ちにしています。

インタビュー:事務局